

# ごあいさつ

所 長

やました たけし  
山下 武志

この度、4月1日付けで所長を拝命しました山下と申します。

熊本県では、令和3年度(2025年度)から昨年度にかけて4年連続で八代海に発生した有害赤潮により養殖魚等の甚大な被害が発生しており、合計の被害額は約50億円となっています。

そこで、赤潮被害を軽減するために、関係者と連携した赤潮の早期発見と迅速な情報発信とともに、珪藻プランクトンを活用した有害赤潮発生抑制試験や改良した餌によるへい死抑制の実証試験等に取り組んでいます。

また、これらの赤潮研究を加速化するために、本年4月から特別研究員として招へいた国立研究開発法人 水産研究・教育機構 瀬戸内海区水産研究所 元所長 板倉 茂博士を中心に赤潮対策プロジェクトチームを発足させたところです。

一方、海面漁業では、有明海、八代海、天草灘における多くの魚介類で漁業生産量の減少が続いており、漁業者の高齢化、後継者不足、離職による就業者の減少も深刻な問題です。これらに対応するため、国や他県とも連携し、有明海・八代海等の再生への取組とともに、資源管理や栽培漁業などの推進や新規就業者などに向けた研修にも取り組んでいます。

今後も、関係機関と連携し、調査・研究を着実に進め、漁業経営の向上につながる成果となるよう取り組んでいく所存です。





令和7年(2025年)4月1日付けで特別研究員を拝命しました、板倉 茂です。

令和3年(2023年)3月に国立研究開発法人水産研究・教育機構を退職いたしました。昭和62年(1987年)に当時の水産庁南西海区水産研究所(現在の水産研究・教育機構水産技術研究所廿日市庁舎)に入庁して以降、有害・有毒藻類や珪藻類の生理・生態に関する研究を行っていました。

水産業をめぐる情勢が厳しい中、熊本県では昨年度までに4年連続で大きな赤潮被害が発生しています。この度、赤潮対策プロジェクトチームの特別研究員として赤潮対策に係る試験研究のお手伝いをさせていただく事になりましたが、私の経験が少しでもお役に立つように精一杯の努力をいたしますので、何か御協力できることがあれば、ご遠慮なくお伝えいただければ幸いです。

赤潮は、沿岸海域における複雑な環境変化によって発生や消滅を繰り返す現象で、まだまだ未解明な問題が数多く残されています。このような問題に取り組むためには、生物の専門家だけでなく、海洋物理や海洋化学の専門家などとも協力をする必要があります。幸い私は、現在も水産研究・教育機構の赤潮関係の仕事のお手伝いをさせていただいておりますので、組織・機関をまたいだ協力関係を築きながら、より効率的で効果的な赤潮対策の構築を目指していきたいと考えております。

皆様には、何卒お力添えをいただきますようよろしくお願い申し上げます。